

## ○編集後記

\*「世界」1月号で、元内閣法制局長官の阪田雅裕さんは、「憲法9条の死」と題する文章を書いています。12月16日に閣議決定された安保3文書は「防衛政策の大転換にとどまるものではなく、75年日本が守ってきた平和主義を破棄するものだ」と断じ、平和主義が時代にそぐわないものであれば、正面から国民の決意と覚悟を求めるのが政治の王道とも言っています。本当にこのままいけば1991年のペルシャ湾への掃海艇派遣から30年余で9条はもはや骨抜きになったと言わざるを得ません。総がかり行動の横断幕に「憲法変えて戦争するな」というのがありましたが、今は皮肉なことに「憲法変えずに戦争するな」と言いたくなる時代に突入したのだと実感します。フランスでは年金改革に反対をして200万人余りの人がデモをしたと報じられている。これだけ物価が上昇し、賃金も上がらず年金も目減りをして生活が圧迫されているのに日本では大きなデモの一つも起こらない。この違いは何だろうと思う。阪田さんの言葉を言い換えれば、今回の安保3文書は「国民」に「本気で戦争をする覚悟があるのですか」と問われていることだと思う。などなどいろいろ考えるが、行動するしかないと思う。\*1月に「韓国併合100年」東海行動主催で、京都のウトロ平和祈念館に20人で行って来ました。戦前の飛行場建設から戦後も残された在日の集住地区で、土地の立ち退き問題を裁判で負けたにもかかわらず、住民と日韓の市民が政府をも動かして「ウトロで生きる」ことを勝ち取ったところ。ぜひたくさんの人に行って欲しいところ。また企画したい。\*土井敏邦監督の「愛国の告白 沈黙を破る・Part2」を観た。名古屋での上映は、もう終わってしまいましたが、これも観て欲しい映画。\*原稿を寄せてくださった皆さん、ありがとうございます。読んでくださいね(#^#)